

情 報 公 開 文 書

研究の名称	当院における スプリングガイドカテーテルを用いた硬膜外腔癒着剥離術の短期治療効果に関する症例検討
整理番号	
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者 (所属・氏名)	富山大学附属病院麻酔科 助教 吉田雅
研究の概要	【研究対象者】2022年4月1日から2023年3月31日までに富山大学附属病院において腰部硬膜外腔癒着剥離術を施行された患者様で研究報告に関する同意をいただいた方を対象とします。 【研究の目的・意義】腰痛症に対する治療法は、薬物療法や外科的治療が主流ですが、薬物療法では十分な鎮痛が得られない症例や、外科的治療後も痛みが持続または増悪する脊椎手術後症候群 (field back surgery syndrome; FBSS) 症例が多く、腰痛症による ADL の低下が社会的問題となっています。近年、慢性腰痛症や FBSS に対するインターベンショナル治療として、スプリングガイドカテーテルを用いた硬膜外腔癒着剥離術 (percutaneous epidural adhesiolysis; PEA) が注目されています。海外では推奨度が高い治療法ですが、本邦ではまだ十分な報告がありません。 当院で施行した腰部 PEA についてどのような症例で有効か、後方視的に検討を行います。 【研究の方法】有効例と無効例に分類し、それぞれについて患者背景(年齢、性別)、効果予測因子(高張食塩水注入の有無、対象疾患、罹患期間)、NRS の推移を電子診療録より集積し群間比較を行います。 【研究期間】 実施許可日 ~ 2025年3月31日 【研究結果の公表の方法】論文(日本語・英語)として公表します。
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 (他機関への提供の有無)	患者背景(年齢、性別)、効果予測因子(高張食塩水注入の有無、対象疾患、罹患期間)、NRS の推移に関する診療記録を調査します。 他機関への情報の提供はありません。また、取得した情報は匿名化し、個人が同定されることがないように慎重に配慮します。
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	機関：富山大学附属病院 責任者：病院長 林 篤志
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者(研究主機関における研究責任者氏名)	富山大学附属病院麻酔科 助教 吉田雅
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	研究対象者からの除外(試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む)を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。 電話 076-434-7377 FAX 076-434-5040 E-mail myoshida@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名 富山大学附属病院麻酔科 助教 吉田雅